別紙様式1

平成29年度各学年における検証改善サイクルスケジュール ~学力調査等との関連から~

尾道市立高西中学校 1月 2月 4月 5月 6月 7月 3月 H28学年 3月 H29学年 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 H30学年 小2 小1 小3 小1 小2 小2 小3 小4 小5 小3 小4 小4 小6 小5 中1 小5 小6 4/13 市調査 「基礎・基本」プレテスト1 中1 中2 小6 0-結果分析 課題改善に向けた取組 課題改善に向けた取組 中1 中2 中3 課題改善に向けた取組 採点 : 結果分析 「全国」プレテスト 課題改善に向けた取組 検証テスト (3)「基礎・基本」プレテスト2 6/13「基礎基本」 中3 中2 0 課題改善に向けた取組 課題改善、高校入試に向けた取組 採点•結果分析 (5) 検証テスト 4/18「全国」調査 中3 アンケートの実施課題を意識した授業の工夫を全員 各学力調査の分析及び、年度末ま での計画を具体化する。(8月30日 ・改善のための方策の立 ・改善のための方策の立 め ざす 次 学年部 プレテ 全 まで) 年 玉 児童生徒の 課題を意識した授業改善 アンケートの実施 度 1学期アンケート結 の方針を統一 学 校内研修 研究主任 校内研修 アンケートの実施検証問題の実施 による取組の検 校内研究授業のスケ の 果による授業の分 授業公開 力 証(2月末) 目 . 検証問題実施に向 検証問題の実施と プレテストの実施と 標 定期試験問題への 教務主任【プレテ】 学 けての取り組みの 指導助言 姿 の 進捗状況を確認 習 の 経営会議で年度末 設 スケジュール管 3学期の取組の 3学期の取組の 状 までの取組につい 達 具体の共有(12 確認(1月13日ま 授業観察 授業観察 定 教頭 況 て協議(6月末) 月末) 調 課題となった設問、領域等の改善 キーワードとなる 語句に注意して文章を読み,表を 説明的文章や資料を用いた問題を作成し、読み取り 査 国語 課題となった設問、領域等 課題となった設問、領域等 用いて内容を整理させる取組を授業に取り入れる。 のポイントを定着させる。 に向けた授業改善 自 (指導方法等の改善計画とリンクさせる) (指導方法等の改善計画とリンクさせる) <旦体策> <定着に向けて> 校 全国学力 全国学力 社会科で学習する用語を用いて、事象の説明をす 定期試験で類似問題を出し、模範解答と自分の答を 社会 市の学力調査分析 る(書く・話す)活動を増やす。 比較させ、どのような説明の仕方がよいのかを考えさ 採 国語 目標値(75)実施後(国語 領域(A4一)正答率(64.3)無答率(0) せる。 数学 目標値(50)実施後(数学 領域(A9)正答率(14.3)無答率(20.6) 点 、☆ P** ★ 「○○は・・・の関数である」という形で表現する活動を取り入れる。 色々な式と比較させ、その特徴を捉えさせる。 課題となった設問、領域等の改 ペアで説明し合う場を設定するなど表現する機会を増や 基礎•基本 算数•数学 基礎•基本 及 善に向けた授業改善 ・ 繰り返し学習を行い、知識の定着を図る。 国語 目標値(80)実施後(国語 領域(五3)通過率(76.0)無答率(4.8) び <具体策> <定着に向けて> 理論的,系統的な説明をもとに,内容を理解させる。 振り返り学習を毎時間取り入れ,知識の定着を図 数学 目標値(70)実施後(数学 領域(12-1)通過率(48.8)無答率(1.6) 分 理科 市の学力調査分析 実物を導入で用いて、興味・関心を持たせる。 理科 目標値(40)実施後() 理科 領域(5-3)通過率(7.2)無答率(0.8) 析 英語 目標値(40)実施後(英語 領域(実技2)通過率(37.6)無答率(0.8) <定着に向けて> 大変情報が 授業開始時のQ&Aの質問の幅を広げる。生徒同士でやりとり 関表取りの活動においても、原稿を示しながら答の をする活動も増やす。単語や表現に注目させ、読み取った内容 根拠を見つけさせる活動を行う。 英語